



田植後の適切な管理を！

●田植えについて

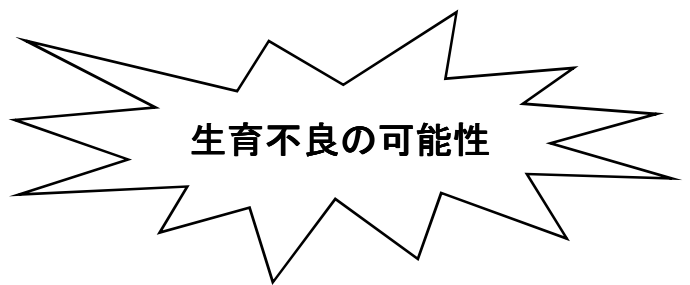
早い地区ではすでに田植作業が始まっておりますが、作業は好天で温暖な日を選び行うようにしましょう。悪天候下での田植作業は、**活着の不良**や**生育の停滞**につながる原因となるので行わないで下さい。

～田植時の適切な気温～

稚苗：気温が13℃以上の日

中苗：気温が14℃以上の日

この温度以下での田植は…



●田植後の管理について

移植直後は、苗の保温効果・活着の促進・悪天候下からの保護として深水管理を行いましょう。期間は1週間程度とします。その後は早期の茎数確保のため、3～4cmの浅水管理とし、分けつの発生を促してください。入水は温度格差をつけるため、できるだけ早朝に短時間で行いましょう。

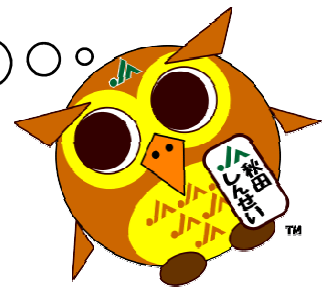
また、気温の上昇とともに表層剥離や藻類の発生、ガス湧きが懸念されます。表層剥離や藻類の発生量が多いと地温の低下や除草剤効果の抑制等に結びつき、ガス湧きは根を傷める原因となりますので、水の入れ替えで環境の改善を図ってください。

★薬剤による表層剥離・藻類対策…モゲトン粒剤

表層剥離：10aあたり1～2kg散布

アオミドロ：10aあたり2～3kg散布

できるだけ早めに薬剤散布を行いましょう。



●今後の生育ステージと管理表

生育ステージ	時期	葉令	水管理	技術対応
分けつ期	5月下旬～6月中旬	5.1～8.5葉期	浅水管理	活着後は分けつ促進のための浅水管理
有効茎決定期	6月下旬	8.5～9.0葉期	深水管理	2次分けつ抑制のための深水管理
最高分けつ期	7月上旬	10葉期	中干し	生育量に基づいての中干し

●田植後の余り苗について

毎年圃場や畦畔に余り苗を放置されているのが散見されます。余り苗を放置しておくとは「いもち病」の発生源となりますので、必ず土中に埋没するか、圃場から離れた場所へ撤去し、処分して下さい。

また、田植後に使わずに余ってしまった苗がある場合は余った数量を最寄りの営農センターまで報告していただければ幸いです。



●統一草刈り期間について

第1回統一草刈り期間：6月1日～6月10日

毎年行っておりますが、6月1日から6月10日まで統一草刈り期間となっておりますので、カメムシの増殖を低下させるため、地域ぐるみの草刈り作業と刈り草の撤去を行って下さい。

また、近年発生量が多いアカスジカスミカメは水田内のイネ科雑草(ヒエ類)やカヤツリグサ科(ホタルイ・シズイなど)の穂に産卵するので、水田内の除草対策も徹底して下さい。



↑アカスジカスミカメ

●除草剤

★初期剤

剤名	成分数	剤形
ピラクロン	1	1キロ粒剤
		フロアブル
メテオ	1	1キロ粒剤
		フロアブル
		※ジャンボ
ショキニー	2	フロアブル
		豆つぶ

※は新しく登場

ジャンボ剤・・・小パックを水田内へ投げ入れ

豆つぶ剤・・・ひしゃくを使用し、畦畔から水田内へ散布

省力化

ジャンボ剤や豆つぶ剤は省力をするうえでオススメの剤形です。どちらも動力散布機を使う必要がなく労力を大幅に軽減することができます。また上記の初期剤を使用することによって、体系処理での除草効果を高めることが期待できますので使用方法を確認のうえ適期に散布していただくようお願い致します。

●稲作メールマガジンについて

平成26年より、JAから緊急性の高い情報がある場合等、緊急営農情報を発信しております。受信するためには登録が必要ですので、右記のQRコードを読んでいただくか、ホームページより専用ページへアクセスしていただき、登録してください。登録方法が分からない場合は、最寄りの営農センターか本店の米穀課までお問い合わせ下さい。

緊急情報だけでなく、時期に合わせた情報も随時配信して参りますので登録をぜひともお願い致します。

